

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network

Now

2019 No.521

5 / 1

JART情報
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル31階
TEL. 03-5405-3612 FAX. 03-5405-3613



ECR2019において Voice of EPOS Japaneseセッション 開催される

2019年2月27日(水)から3月3日(日)まで、中澤会長と児玉理事がオーストリア・ウィーンで開催されたECR (European Congress of Radiology) 2019に参加した。ECR 2019では初めてRadiographers' Loungeが設置され、ISRRTブースをはじめ各国の診療放射線技師会のブースが設置され、JARTのブースも同様に設置された。JARTのブースでは、海外研究発表者渡航助成事業に採択された本会会員への助成証書授与式が執り行われた。またRadiographers' Loungeのすぐ横にVoice of EPOSのRadiographerステージが設置され、こちらで診療放射線技師のVoice of EPOSが開催された。2月28日(木)・3月1日(金)の2日間で、Voice of EPOSのJapaneseセッション (VoE-130・VoE-139) が初めて開催され、2日間とも中澤会長がセッションの座長を務め、日本の診療放射線技師の方々が研究発表を行った。

またECR2019では初めての試みとして、ESR Connect Studioにおいてインタビューが行われた。このインタビューはESRの会長をはじめ、各学術団体の代表などを対象に行われた。今回、JARTへのインタビューには中澤会長が出演し、Voice of EPOSのJapaneseセッション、Radiographers' Loungeの感想、日本の診療放射線技師に対するプロモーション活動などについて質問があった。なお、インタビューの様子は下記のURLから誰でも視聴できるので、ぜひご覧いただきたい。

中澤会長へのインタビュー

<https://esr-connect.meta-dcr.com/ecr2019/crs/interview-with-yasuo-nakazawa>



Voice of EPOS Japaneseセッションの様子

ECR2019では、ESR・EFRS・ISRRTなど、他団体と多くの会議を持った。ESRとの会議では、ESR corresponding membershipに日本から697人が登録していることに対して感謝が述べられ、ECR2019での日本の診療放射線技師のAbstract採択数については、Scientific Paperでは13演題中6演題、EPOSについては105演題中90演題が採択されたことが報告された。またshape your skillsプログラムで、26人の日本の診療放射線技師が採択されたことも報告された。

次回のECR2020は、2020年3月11日(水)から15日(日)までオーストリアのウィーンで開催され、Abstractの締め切りは2019年10月10日(木)である。多くの会員の皆さまのご参加を期待したい。

第52回 中華民国医事放射学会学術大会 開催される

2019年3月9日(土)・10日(日)に、The 52nd Annual Meeting of the Taiwan Society of Radiological Technologists (TWSRT) and the International Conference of Medical Imaging (第52回中華民国医事放射学会学術大会)が、台中市の中山医学大学で開催された。アジア地域を中心に10カ国、約70人の外国人を含めおよそ千人が学術大会に参加した。日本からは佐野副会長、児玉理事をはじめ、鈴鹿医療科学大学、駒澤大学、日本医療科学大学の学生を含めた28人が参加した。今回のTWSRTでは、各国における診療放射線技師の現在と未来に関するテーマシンポジウムが開催され、日本からは佐野副会長が「Current status and future perspective of Japanese license and education for radiological technologists」というタイトルで発表した。

日本・韓国・台湾の三国代表者会議では、アジアサポートファンドの使用予定について話し合わせ、2019年8月にインドネシアおよびマレーシアへの教育支援として、MRI技術に関するワークショップを実施することが決定された。また次



佐野副会長によるシンポジウムでの講演



日本・韓国・台湾の三国代表者会議

回、韓国で開催されるEACRTでは、EACRTシンポジウムとしてCTをテーマにしたシンポジウムを開催することが決定し、日本からは頭頸部領域に関する教育講演を行うことになった。また国際認定資格試験の作問および日程についても再確認が行われた。

次回のEACRTは、2019年10月に韓国の京畿道で開催される。初めての英語での発表を考えている会員の方は、ぜひ挑戦していただきたい。多くの会員のご参加を期待する。

22nd Asia-Australasia Conference of Radiological Technologists (AACRT2019) 開催される

2019年3月29日(金)から31日(日)まで、オーストラリアのAdelaide Convention Centreで22nd Asia-Australasia Conference of Radiological Technologists (AACRT2019)が開催された。このAACRT2019は、オーストラリア診療放射線技師会(ASMIRT: Australian Society of Medical Imaging and Radiation Therapy)の国内学会とのJoint Conferenceとして開催され、14カ国、約200人の外国人を含めおよそ千人が参加した。日本からは中澤会長、篠原理事、児玉理事をはじめ14人が参加した。

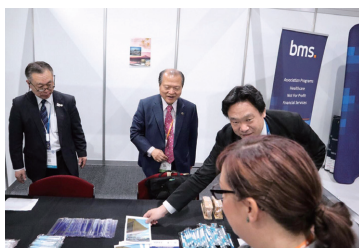
大会に先立ち、28日(木)にはAACRT member societies meeting・ISRRT A/A regional meetingが開催された。これらの会議では、ISRRTの年会費の改正や活動報告、各国からの報告、2023年のAACRT開催国などの協議が行われた。

なお、第24回AACRT(2023年)はマレーシアで開催することが決定した。29日は、Opening Ceremonyに引き続き、招待講演・一般演題発表があり、海外研究発表者渡航助成事業に採択された本会会員への助成証書授与式も執り行われた。30日夜にはGala Dinnerが開催され、各国によるプレゼント交換が行われるとともに、各国と情報交換を行った。31日のClosing Ceremonyでは、次回開催国である日本がプレゼンテーションを行い、AACRTの鐘の引き渡しを行った。なお、大会期間を通じてAACRT2021-JARTブースで、次回開催の案内を配布した。

次回、第23回AACRTは2021年11月12日(金)から14日(日)まで東京ビッグサイトで開催する。多くの会員のご参加をお待ちしている。



AACRT member societies meeting 終了後の記念撮影



AACRT2021-JARTブースで



AACRTの鐘

第8回 医療放射線の適正管理に関する検討会 開催される

2019年3月6日(水)、厚生労働省専用会議室において8回目となる「医療放射線の適正管理に関する検討会」が開催された。本会からは構成員である小田正記理事はじめ、中澤靖夫会長、上島隆事務局長、木村由美専門職が随行者として出席した。

議事は、(1) 医療法施行規則の改正規定に関するパブリックコメントについて (2) 医療法施行規則の改正に伴う留意事項について (3) 医療用放射性汚染物の取扱いについて (4) その他——である。

(1) は、医療法施行規則の改正に伴い募集されたパブリックコメント(2019年1月9日より2月7日まで)について、その対応方針を審議した。パブリックコメントの主な意見は、①診療用放射線の利用に係る安全管理のための責任者について ②診療用放射線の利用に係る安全管理のための線量を記録する放射線機器の種類について ③未承認放射性医薬品について——である。

①は、医療放射線の安全管理責任者の配置に関して、医師または歯科医師の他、診療放射線技師についても医療放射線の安全管理責任者とすべき、という意見が多く寄せられたとのことであった。医療のさまざまな現場での放射線管理を鑑み、常勤の医師または歯科医師が適切な指示を行う体制が確保されている場合は、当該医療施設の診療放射線技師を責任者とすることを認めることが了承された。②は従来通り、被ばく線量が相対的に高い検査であるCTエックス線装置、血管造影検査に用いる透視用エックス線装置、診療用放射性同位元素、陽電子断層撮影診療用放射性同位元素を対象とすることとなった。③は、院外調製の陽電子断層撮影診療用放射

性同位元素については、ヒトに対して適正に使用することが外形的に明らかであるものに限定することとなった。

(2) については、従来医療法施行規則になかった①核医学機器の精度管理における放射性同位元素の使用について ②エックス線診療室における複数のエックス線装置の使用について ③エックス線装置の使用場所の制限の合理化について——が盛り込まれることになったため、その留意点が審議された。

(3) については、放射性廃棄物の取り扱いが原子炉等規制法で一本化されたことによる、医療用放射性汚染物の規制の一元化が図られることになり、その具体案が審議された。

(4) は、医療機器の効率的な活用などについて情報提供がなされた。

なお、本検討会での審議事項を踏まえたかたちで「医療法施行規則の一部を改正する省令(平成31年厚生労働省令第21号)」が2019年3月11日に公布された。このうち「診療用放射性同位元素及び陽電子断層撮影診療用放射性同位元素の取扱いに関する規定」は2019年4月1日施行、「診療用放射線に係る安全管理体制に関する規定」は2020年4月1日より施行されることとなった。

本検討会は今後も継続していく予定であり、次回開催については未定である。

これまでの検討会の内容については、厚生労働省のホームページをご確認いただきたい。

(https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-isei_436723.html)

(文責：小田正記)

5月・6月の講習会などスケジュールのご案内

- | | | |
|-------------------------|-----|----------|
| ■ 放射線被ばく相談員フォローアップセミナー： | 東京 | 6月16日(日) |
| ■ 医療被ばく低減施設認定取得セミナー： | 北海道 | 6月22日(土) |
| ■ モニタ精度管理セミナー： | 東京 | 6月22日(土) |
| ■ 放射線取扱主任者定期講習： | 東京 | 6月28日(金) |

INFORMATION

ホームページ閲覧のお願い

「業務拡大に伴う統一講習会」および「診療放射線技師基礎技術講習」の開催日程につきましては、ホームページで随時更新しておりますので、そちらをご参照ください。

- 「業務拡大に伴う統一講習会」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/schedule.html
- 「診療放射線技師基礎技術講習」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/ib0rgt0000004api.html

INFORMATION

第71回 診療放射線技師国家試験問題の分析結果

診療放射線技師国家試験問題評価委員会 委員長 佐野 幹夫

2019年2月21日(木)に実施された、第71回診療放射線技師国家試験の出題内容および解答の考査を目的として、2月24日(日)に診療放射線技師国家試験問題評価委員会を開催した。本委員会では、今回の国家試験が診療放射線技師法第17条で定める、診療放射線技師として必要な知識および技能を評価する試験問題であったのかを検討した。またその結果報告と評価は、3月4日(月)に厚生労働省医政局医事課試験免許室にJARTからの答申書として提出された。

・2018年度 第71回 診療放射線技師国家試験結果

受験者数：3,202人 合格者数：2,537人 合格率：79.2%

・過去の合格率との比較

年度/回	受験者数	合格者数	合格率
2018年度 第71回	3,202人	2,537人	79.2%
2017年度 第70回	2,971人	2,237人	75.3%
2016年度 第69回	2,939人	2,511人	85.4%
2015年度 第68回	3,016人	2,377人	78.8%
2014年度 第67回	2,839人	2,094人	73.8%
2013年度 第66回	2,907人	2,224人	76.5%

過去5年間の合格率と比較して、本年度の出題傾向は平均的水準と判断している。「第71回診療放射線技師国家試験問題の分析結果」を答申書として取りまとめ、一部内容を掲載する。

1. 総評

診療放射線技師として必要な知識および技能を問う問題が適切に出題されていた。全体の印象としては授業および臨床実習での成果が十分に評価できる良問が多かった。そして過去に出題された問題と類似した内容も多く見られ、その意味において、今回は受験者には解答しやすかったといえる。

しかし、出題傾向として若干の偏りが見られた。MRIやCTおよび治療に関する設問が多い一方で、IVRや救急医療に関する設問が少なかった。医療安全の視点から勘案すれば、救急撮影および検査に関する設問は重要と考える。特に救急対応の観点から血管系の疾病などのパニック画像（緊急性を要する疾病）については、診療放射線技師が日常的に臨床の現場で求められている実態を鑑みれば、知識や技能の習得は重要であり、今後の出題に期待したい。

また今回は、医療者として必要と思われる知識の設問も多く見られた。WHOのPSグレード（患者の全身状態の指標）や移植の拒否反応、疫学、がんの死亡率や人口推計（高齢化

社会）など、医療分野のさまざまな視点からの設問が出題されたのは良い傾向だと考える。そして検査に関する問診も出題されており、臨床実習での知識が問われる良問であった。

そして読影補助業務に通じる解剖学や基礎医学の領域からの出題傾向が多い一方で、視覚素材（画像閲覧）の設問が、近年、極端に減っている傾向にある。臨床現場で求められる疾患に関する拾い上げ所見への設問がほとんど見られないのは残念である。医師の指示による緊急検査に対応する診療放射線技師にとって、画像情報の結果は速やかな報告が求められる局面も多く、疾病に関する知識の習得は医療安全の観点からも重要であり、今後の出題に期待したい。

今回の試験問題において、複数解答と思われる問題や正答肢がないと思われる問題を以下に記載する。試験委員長、副委員長および試験委員の皆さまの、丁寧かつ慎重な問題の作成と検討を切にお願いしたいところである。

2. 具体的な内容

(1) 読影の補助に関連する問題

読影の補助を実施するために必要となる医学的知識を問う問題が多数出題されていた。

疾病に関する原因・発生頻度・解剖学的配置、がんの浸潤や転移など、診療放射線技師の業務内容を鑑みて、その重要性から国家試験問題に反映していただいたことは高く評価することができる。

(2) 視覚素材

全ての画像が鮮明に印刷されており、受験者は判読しやすかったと思われる。

午後の問題85のように、疾患の位置を解答させる問題は、解剖学や撮影技術学の知識を評価するもので極めて良問である。しかしながら、近年は視覚素材を用いた問題が減少傾向にある。将来の医療従事者として基礎的な医学的知識を有するかを評価する目的で、疾患が描出された画像から原因や症状・治療法・緊急的処置などを判別させる問題を出題すべきである。

(3) 撮影体位および救急撮影に関する問題

視覚素材によりX線撮影の体位を示し、観察する部位を判別させる問題が出題された（午後84）。また異常箇所から適切な撮影像を選択させる問題も出題された（午前89）。これら撮影時の整位や画像に関しては、学内の講義や実習・臨床実習で深く学んでおり、診療放射線技師の国家試験問題として適切であり、かつ良問であると評価する。本年度は尺骨神経溝を観察する

体位に関して出題されていたが、臨床実習で経験する受験者は少ないと思われる。臨床の場で日常的に広く実施され、ほとんどの受験者が学習する撮影法を出題すべきである。なお、救急撮影に関しては1問も出題がなかったことから、今後の出題を検討していただきたい。

(4) 感染症対策、医療安全および疫学

昨年度と同様に、感染症対策および医療安全を問う問題が出題された。免許取得後に臨床の現場で必要となる知識および技能であることから、引き続き出題を検討願いたい。なお、疫学についての問題が初めて出題された。診療放射線技師にも医学研究の基礎的な知識が求められることから、今後も出題をお願いしたい。

3. 解答が複数と思われる問題

本会としては、問題数全200問中5問を不適切問題と判断し答申書に指摘したが、厚生労働省から発表された「採用を除外等の取扱いにした問題」は3問が正式採用となった。この結果において、関係各位のご理解に感謝を申し上げたい。

4. 今後に向けての提案

医療を受ける国民にとって重要なことは、その時々で最良の医療が受けられることである。日進月歩の医療の中で、医療職に求められる知識・技術は増え続けている。一方、使われなくなる技術もあるが、知識としては当面必要である。国家試験に出される問題の傾向は、教育現場で即座に対策されるため、現在、医療で行われている医療職としての役割（救急医療・読影の補助など）を問うことで、安全な医療に反映することが可能となる。医の倫理、感染対策、多職種連携に必要な設問を検討していただきたい。さらに国家試験は教育現場に直結され、いち早く求められる教育が享受されるため、医療社会のニーズに反映し、医療専門職種の資格に特化した被ばく評価・テロ対策など、施策に関連させた出題も考慮する必要があると感じる。

また厚生労働省の通知からも明らかなように、診療放射線技師の役割の中には「読影の補助」「検査の説明」が義務付けられており、それによりチーム医療が推進され患者への貢献も期待される。特に検診領域や救急領域においては周知の事実であり、医師と他の医療職種間で行われようとしているタスク・シフティング/タスク・シェアリングを視野に入れ、診療放射線技師がチェックし、読影補助業務として医師に報告するためにも、今後は臨床的疾患の画像所見を問う設問や病気が疑われる場合に作成する画像（3D）に関する設問なども、検討していただきたい。

そして医療の発展とともに、診療放射線技師の業務内容も拡大する中で、領域ごとの設問数に現状では限りがある。基礎的知識も必要であるが、臨床の現場で求められる医療の質および医療安全の重要性の観点から、現行の国家試験問題数の増加への検討をお願いしたい。また現在、カリキュラムが検討される中、将来の養成校教育の在り方を見据え、国家試験問題の出題数増加とともに科目の見直しも必要不可欠である。

*上記の理由により国家試験問題数の増加をお願いしたい。

提案：200問（現行） → 240問（改正後）

以上が提出された答申書の一部内容である。

本年度は3,202人の受験者が診療放射線技師の国家試験に挑み、2,537人の診療放射線技師が新たに誕生した。医療の発展とともに技術の進歩や新たな分野が国家試験問題に反映されており、本会としても、現状において医療現場で必要とされている知識や技術が加味された問題が、常に提出されているかを分析評価することは職能団体としての使命である。本委員会の責任は重大であると委員一同が認識をして、今後でも取り組んでいきたい。

最後に、本年度、医療現場に誕生した2,537人の診療放射線技師の皆さまの今後のご活躍を期待するとともに、診療放射線技師唯一の職能団体である日本診療放射線技師会への入会を切に望むものである。

本会への入会手続きについて（お知らせ）

ホームページからでも、書類でも・・・本会への入会は、次のいずれかの方法によりお手続きいただけます。

- ❶ 本会ホームページ (<http://www.jart.jp>) から“新規入会はこちらから”をクリック
- ❷ 書類のご提出

書類のご提出によるお手続きの場合は「申込書」を本会事務局までご請求ください。

TEL：03-5405-3612 E-mail：info@jart.or.jp

ぜひ周りの非会員の方に、お知らせください。

INFORMATION

医療基礎コース「看護学」実習 開催される

2019年2月23日(土)、昨年度に引き続き、名古屋掖済会病院の講堂で医療基礎コース「看護学」実習が開催された。2015年度より4年連続の愛知県での開催となった。今回は受講募集期間が短かったこともあり、定員30人に対し22人の受講希望者数であった。残念ながら当日3人が参加できなくなったが、全国から19人の参加があり、午前9時からの実習に励んだ。

初めに、公益社団法人愛知県診療放射線技師会 近藤裕二会長よりあいさつがあり、職能団体の重要性や「業務拡大に伴う統一講習会」への参加促進などについて話された。その後、講師の先生方の自己紹介を皮切りに実習がスタートした。講師は、名古屋掖済会病院看護部 水谷副看護部長、佐藤看護師長、小山田看護師長、櫻井主任、稲葉主任により行われ、いずれも看護の分野で認定看護師の資格を有する優秀な5人の講師陣であった。実習は19人を4つのグループに分け、自己紹介を兼ねたアイスブレイクによりグループ内でのコミュニケーションが図られた。午前中は、動画を視聴しながらの接遇・コミュニケーション(ビジネスマナー、お辞儀や発音、滑舌の実践、敬語の実力チェック、医療現場での言葉遣いなど)の講義と実習、感染予防策の講義が行われた。



午後は、患者移送・移動の技術を動画で視聴し、さらに車いす・ストレッチャーを使用して講師の指導を受け、グループ内での議論も交わしながら楽しく身に付く内容であった。最後の実習は、午前中に講義を受けた感染予防策の実習で、有効な手洗いの方法と个人防护具の脱着について学んだ。その後、受講した皆さまに今回の修了証が渡され、実習は終了となった。

愛知県診療放射線技師会では、2019年度も医療基礎コース「看護学」実習を継続開催する計画で準備しており、今後も会員の方のご支援・ご協力をお願いしたい。

最後に、昨年に引き続き公益社団法人日本診療放射線技師会の事業にご理解いただき、ご支援・ご協力いただいた名古屋掖済会病院看護部に感謝申し上げます。

(公益社団法人愛知県診療放射線技師会 鈴木正広)

医療基礎コース「救急医療学」実習 開催される

2019年3月10日(日)、JA愛知厚生連海南病院で医療基礎コース「救急医療学」実習が開催された。2016年度より3年連続の愛知県での開催となった。今回は、定員24人に対し23人の受講希望があった。当日2人が参加できなくなったが、全国から21人の参加があり、午前10時30分から実習が始まった。

初めに、公益社団法人愛知県診療放射線技師会常務理事より開会のあいさつがあり、その後、講師の先生方の自己紹介を皮切りに実習がスタートした。講師は、上尾中央総合病院 佐々木健会員をはじめ、静岡県・愛知県・岐阜県・兵庫県より、いずれも日本救急医学会 ICLS 認定インストラクターの

資格を有する優秀な9人の講師陣にお集まりいただいた。

午前は「一次救命の歴史と心肺蘇生法のポイント」についての講義の後、実技「発見から胸骨圧迫」が行われた。午後は「気道確保と換気」「AEDの取り扱い方」について講師の指導を受け、グループ内での議論を交わしながら実習を行った。実習後は筆記試験と実技試験があり、最後に今回受講した皆さまに修了証が渡され、実習は終了となった。

医療基礎コース「救急医療学」実習は、優秀な講師陣による講義・実習に加え、ポケットマスクまで提供され、会員であれば3千円で受講できる大変充実した内容の実習である。来年度以降も各地で開催される予定の本実習が盛況であることを願う。

愛知県診療放射線技師会でも、引き続き医療基礎コース「救急医療学」実習を継続開催したいと考えており、今後も会員の方のご支援・ご協力をお願いしたい。

最後に、年度末の多忙な中お集まりいただき、ご指導して下さった講師の皆さまに感謝申し上げます。

(公益社団法人愛知県診療放射線技師会 鈴木正広)



第3回 画像等手術支援認定講習会 開催される

2019年2月17日(日)、第3回画像等手術支援認定講習会が東京大学医学部附属病院 大会議室で開催された。8科目8時間からなるプログラムで講師8人による丸一日の講習会であったが、遠方からの受講者もあり、講習会開催日の前後にかけて宿泊される受講者も数人見受けられた。季節的にインフルエンザが流行していたが、114人の受講者があり講習会は滞りなく終了した。

講習会の案内は本会会誌やホームページなどで広報しているが、現在、ホームページからの申し込み開始から1時間以内で定員となるケースが続いている。2019年からはこの問題を克服し、できるだけ多くの会員に受講していただけるようにしたい。

画像等手術支援分科会(以下、当分科会)にとって、多くの認定技師を輩出し、臨床に強い知識を養い装置に向き合うことは大切ではあるが、われわれの目標は患者と病気にきちんと向き合える診療放射線技師になることである。3次元画像から見いだす情報は、読影力も含めた患者のための支援であり、このライセンスは国民または他職種に認知していただくためのものでもあるので、当講習会を1つのツールと考えていただき、必ず認定試験を受験して認定資格を取得していただきたい。2019年6月23日(日)には、第2回画像等手術



支援認定診療放射線技師認定資格試験があり、会誌およびホームページでご案内するのでお申し込みいただきたい。

なお、今回の講師は以下の当分科会委員が担当した。

- ・画像処理表示法 大村 知己 (秋田県立脳血管研究センター)
- ・救急領域 石風呂 実 (広島大学病院)
- ・心血管・大血管領域 立石 敏樹 (国立病院機構宮城病院)
- ・消化管領域 坂本 崇 (済生会熊本病院)
- ・胸部領域 牛尾 哲敏 (滋賀医科大学医学部附属病院)
- ・脳神経・頭部領域 平野 透 (札幌医科大学附属病院)
- ・骨軟部領域 野水 敏行 (富山労災病院)
- ・腹部領域 富田 博信 (埼玉県済生会川口総合病院)

(広島大学病院 診療支援部 画像診断部門 石風呂 実)

2018年度 第3回 医療被ばく低減施設認定取得セミナー 開催される

2019年2月16日(土)、三重県の鈴鹿医療科学大学で本年度3回目となる医療被ばく低減施設認定取得セミナーが開催された。このセミナーは、本会が推進する「医療被ばく低減施設認定」の意義や認定取得への対応方法、放射線リスク評価の際に用いる組織・臓器の吸収線量を算定するアプリケーションソフトの概要について、実際に訪問審査を行うサーベイヤーやアプリケーションソフトの開発者が解説する内容となっている。参加人数は募集上限に近い50人と多く、



関心の高さをうかがうことができた。

医療被ばく低減施設認定制度は、医療被ばくの個人管理や最適化、医療従事者への教育訓練など、2020年に予定されている省令改正で新たに加わる項目と共通する部分が多く、今後、私たち診療放射線技師が医療施設で行うであろう放射線管理に関する項目が評価項目として設定されている。まだセミナーへ参加していない会員は、次回、ぜひ参加して医療被ばく低減施設認定受審を検討するだけでなく、自施設の放射線被ばくの管理状況について検討してもらいたいと思う。また本セミナーは講師との情報交換がしやすい環境であるため、医療被ばく低減施設認定に関する情報を容易に入手できる特徴がある。

2018年度の医療被ばく低減施設認定取得セミナーは茨城・福井・三重の3カ所で開催された。次年度も地方開催を望む要望が多く、医療安全管理委員会では可能な限り会員の要望に応えたいと考えている。

(医療被ばく安全管理委員会 佐藤寛之)

第3回 医療画像情報精度管理士セミナー 開催される

2019年2月2日(土)、国立がん研究センター東病院 NEXT 棟 2F ななはちホールで、「画像処理とモニタ管理」をテーマに第3回医療画像情報精度管理士セミナーが開催された。講義1では、医療画像情報精度管理士分科会 小西会長より、医療画像情報精度管理士の変遷や今後の施設認定制度への取り組みなどについて幅広く、かつ認定資格の重要性について説明された。講義2では、富士フイルムメディカル(株) MS部 宮野先生より、デジタル画像生成について、EDRの動きと同期した画像の揭示、照射野認識技術の基礎など、画像生成に伴う技術について解説していただいた。講義3では、デジタル画像の特徴であるフィルタ処理・圧縮処理の分かりやすい解説、講義4では、画像(粒状性・鮮鋭度)の評価方法、視覚的評価ROC解析と有意差検定・統計学についての講義、講義5では、医用画像表示モニタ管理の必要性について講義

していただいた。遠方より受講していただいた方々にも聴講の価値は十分にあったと確信する。

セミナー開催に際し、多大なご協力を頂いた千葉県診療放射線技師会 千葉会長をはじめ、関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。(国立がん研究センター東病院 永井優一)



鈴鹿医療科学大学 学位授与式・入学式



2019年3月15日(金)、中澤靖夫会長は鈴鹿医療科学大学白子キャンパス講堂で開催された2018年度鈴鹿医療科学大学学位授与式に参列し、祝辞を述べた。式では医療科学研究科修士課程修了者13人、保健衛生学部放射線技術科学科卒業生107人に学位記が授与された。

また新年度に入り、4月2日(火)、同会場で開催された2019年度入学式に参列し、祝辞を述べた。

本年度の学部入学者数は、保健衛生学部放射線技術科学科119人を含む667人、大学院入学者数は、医療科学研究科36人、薬学研究科2人の計38人であり、入学者総数は705人であった。



65歳以上の方の会費が8,000円になります!

第79回定時総会において「会費等納入規程」の改正があり、2019年度中に65歳を迎える会員、および65歳以上の会員の方の年会費が8,000円となります。次年度の会費請求から実施することになりましたので、お知らせ致します。

それに伴い、会費の終身免除(会費等納入規程第8条)は、5年間の猶予をもって2023年3月末日で終了致します。なお、50年勤続表彰受賞者で35年以上継続している会員の方の年会費終身免除は、これまで通りです。

※会費の終身免除

第8条 25年または30年勤続表彰受賞者で25年以上継続して会員であり55歳以上の会員は、100,000円を本会に納付し、その旨を申請することにより、翌年度以降の会費は終身にわたって免除される。

INFORMATION

第8回 第35回日本診療放射線技師学術大会
埼玉への道

埼玉県診療放射線技師会
編集情報委員会より

浦和vs大宮? + 鋳物の町? 「川口」、ネギ・煉瓦の町? 「深谷」

今回の「埼玉への道」は拡大版、浦和区・川口市・深谷市の紹介です。

浦和は埼玉の代表的な町の一つです。埼玉県の県庁はここ浦和区にあり、まさに埼玉の中核・中心です。またネームバリューとしても人気があり、この地域だけで“浦和”と付く駅名は8つもあります。



浦和宿本陣跡

名物は「うなぎ」で、江戸の時代には中山道の宿場町があり、旅人や釣り客に提供されたそうです。諸説ありますが、浦和は“うなぎのかば焼き発祥の地”ともいわれています。



浦和発祥といわれる“うなぎのかば焼き”

JR浦和駅を降りれば“うなぎ”をモチーフとした浦和のマスコットキャラクター「浦和うなこちゃん」の石像が迎えてくれます。



そして現在、浦和といえばサッカーを思い浮かべるのではないのでしょうか。Jリーグチーム浦和レッドダイヤモンズ（通称、浦和レッズ）の本拠地であるこの町は、文字通り町全体でチームを応援しており、熱狂的なサポーターが多いことも知られています。ホームゲームの日には、サッカー場はもちろん、駅周辺や居酒屋など、浦和レッズのユニホームを着た人々で町は赤色に染まります。



居酒屋の壁にも優勝を祝う垂幕が懸かる

そんな埼玉の中心「浦和」ですが、鉄道で急成長した**大宮**によって、県内の人間でも埼玉の中心は浦和ではなく、大宮というイメージがあります。半分ネタにもなっていますが、浦和と大宮の住民が酒の席で一緒になると、どちらが埼玉一の町なのか不毛な言い争いが繰り広げられます。

全国でも自分たちの町を愛するが故に、隣町の方と言い争う事例はあるかと思いますが、そしてそのほとんどはオチのないネタとして終わるのではないのでしょうか。しかし、その年にもよりますが、浦和と大宮は決着を付けるかのような戦いが行われます。そう、浦和レッズvs大宮アルディージャの“さいたまダービー”です。今年、2019年シーズンはアルディージャがJ2（2部リーグ）のため、リーグでのダービー戦は行われませんが、さいたま市内の隣接する区であり、サッカーに対する熱い思いがある町同志です。当然、ダービー戦が行われる会場は、異様なほどの盛り上がりを見せます。ちなみに通算成績は、リーグ戦（浦和12勝、大宮9勝、引き分け7）、カップ戦（浦和9勝、大宮0勝）です（2019年4月現在）。



埼玉スタジアム2002

正直なところ、浦和と大宮以外の埼玉県民にとっては、何かと争っている町であることは知っていますが「どっちでもいい」こととして受け止めています。ただ、ダービー戦のサポーターを見ると、どこまでが本気で、どこまでが冗談なのか分からないときもあります。いずれにせよ、平和な町だからこそ起きる言い争い（ネタ）かもしれません。

浦和も大宮も、駅前には立派な繁華街があります。うなぎやうどんを食べて、活気のある“さいたま市内”を楽しんでみてはいかがでしょうか？

JR浦和駅はJR大宮駅から10分以内で着きます。



川口市は、大会会場さいたま市の隣町で“^{いもの}鑄物の町”として知られています。

川口が“鑄物の町”といわれる背景は、江戸時代、徳川家康が鍋などの生産のため、全国各地から鑄物師を江戸周辺に呼び集めたことがきっかけです。その際、職人が集まった町の一つが川口でした。川口に集まった理由は、近くを流れる荒川の川砂や粘土が鑄型の材料に適していたこと、その荒川が江戸まで製品を届けるのに便利だったからといわれています。明治以降は近代技術をいち早く取り入れ、高品質・大量生産が可能になり、加えて大砲などの受注・生産による戦争特需もあり、町は繁栄しました。ちなみに、旧国立競技場の聖火台（東京オリンピック1964）は川口の職人による作品です。市内の青木町公園には、この聖火台の「1号機」があります。1号機とは、聖火台として作ったものの失敗した最初の作品です。これが後に修繕され、市に寄贈されました。

鑄物により繁栄した川口市ですが、近年は時代の流れから多くの工場が閉鎖しています。しかし、昔から江戸への流通が便利であった土地柄でしょう、その流通路を生かし、現在では工場跡を有効利用したリサイクルショップが70店ほどあります。そのため“リサイクルショップの町”としての一面を持つ、ただでは転ばない、にぎやかでたくましい町です。ご興味があればぜひ足をお運びください。JR川口駅はJR大宮駅から20分ほどで着きます。

深谷市は大会会場から離れていますが、埼玉県民であれば「深谷=ねぎ」というイメージがあります。埼玉県のネギ生産量は国内トップクラスであり、特に、深谷地域で採れるネギは「^{れんが}深谷ねぎ」といわれ、全国的にも有名なねぎのブランドとして知られています。そんな深谷ですが、実は“^{れんが}煉瓦の町”でもあります。

明治20年、日本初の機械方式による^{れんが}工場が深谷に作られ、近代日本の^{れんが}造りの建物に大きく関わりました。有名なところでいえば、東京大学や改築前の東京駅の^{れんが}は深谷の工場で作られたものです。工場自体は平成18年に120年の歴史に幕を下ろしましたが、一部は日本の近代化の遺産として、国の重要文化財に指定・保存されています。現在の深谷駅は東京駅に似たデザインですが、その背景には、深谷が^{れんが}の町であったことが由来しています。

そして埼玉の偉人として、深谷出身の^{あざな}渋沢栄一氏があります。深谷市内を歩くと銅像・記念館・生家をはじめ、渋沢氏に関わる案内看板を必ず見掛けます。渋沢氏は、幕末、幕臣として遣欧使節団に同行、ヨーロッパを歴訪して近代の経済・経営に開眼します。帰国後は株式会社制度を实践、実業家として活躍しようとしていますが、当時の政治家である大熊重信に説得され、4年間、大蔵省（財務省）の官僚となり、国立銀行条例などに関わりました。退官後は、実業家として東京証券取引所、第一国立銀行（現：みずほ銀行）、キリンビール、帝国ホテルをはじめ、500以上もの企業・学校・医療機関の設立に携わります。渋沢氏は、これらの功績から「日本資本主義の父」といわれています。

最後に、アイスの「ガリガリ君」はご存じでしょうか？ ガリガリ君を生産している赤城乳業本社は深谷市にあります。工場見学できる施設は隣の本庄市にありますが、予約・抽選が必要なほど人気のスポットです。大会会期中、工場見学に行くのは大変かもしれませんが、会場近くのコンビニにはイガグリ頭のイラストが描かれたアイスがあると思います。埼玉出身の商品だと知っていただければ幸いです。

さて、「埼玉への道」も残り2回となりました。次回は再び大宮に戻り、会場周辺をご案内します。



川口駅前広場にあるキューボラ（溶解炉）のモニュメント



聖火台「1号機」



リサイクルショップ



深谷ねぎ



深谷駅



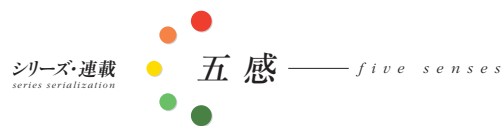
国の重要文化財に指定された旧煉瓦製造施設



渋沢栄一記念館



帰属意識を高く持とう



近年、従来の終身雇用制が見直され、会社が個人の成果を重視するなど雇用体系の変化から、会社への帰属意識が低下しているといわれている。個性を重視するのが当たり前となったことで、帰属意識はますます低下しているとされている。

『帰属意識』とは、ある集団の一員であるその集団に所属している感覚・意識のことであり、「仲間意識」「所属意識」あるいは集団への「愛着」「思い」と言い換えることもできる。

所属する集団の単位は大きなものから小さなものまでが対象となり、例えば国籍・出身地域、宗教や思想、一族としての血縁関係や家族、特定の団体・自治体・コミュニティー、あるいは自分の勤める企業のメンバーであることなども含まれる。

帰属意識の高い人は、自分の所属するチームや組織の一員であるとの意識が強く、組織に貢献しようと頑張る。一方、帰属意識が低い人は、所属する組織を構成する一員であるとの意識が弱いため、ただ組織に所属しているだけになっていることが多いようだ。

ある帰属意識と幸福感についての研究で、組織への帰属意識が高いと幸福感はプラス、組織への帰属意識が低いと幸福感はマイナスの関係にあることが分かったそうである。従って自分

が所属する組織に愛着を持つほど、幸福感が増す傾向があるといえるのではないだろうか。また帰属意識が高い人間関係ではお互いにサポートし合うため、一人では成し遂げられない目標の達成や良い成果を上げやすくなるそうだ。さらに特定の集団に所属し、帰属意識を高く持てると、自分一人では手に入らない特別な情報を入手できるというメリットもある。

日本診療放射線技師会も診療放射線技師が所属する集団である。診療放射線技師免許を有する者しか入れない組織であることから、会員の間には強い仲間意識があり、まさに帰属意識の高い組織といえるのではないだろうか。毎年、多くの会員が日本診療放射線技師学術大会に参加し演題発表が行われているのも、帰属意識を持つ会員が多い証拠だと思う。しかし、業務拡大に伴う統一講習会の低い受講率などを見ると、まだまだ帰属意識の低い会員が存在することも認めざるを得ない。

単に、診療放射線技師だから技師会に入会したという会員もいるとは思いますが、改めて技師会の存在意義について考えてもらいたい。そして会員一人一人が帰属意識を高く持ち、診療放射線技師会への愛着を深め、技師会の発展に貢献していただきたい。(文責：小黑 清)

診療放射線技師のための フレッシューズセミナーのお知らせ

INFORMATION

プログラムは、エチケットマナー・医療安全・感染対策・気管支解剖・胸部撮影基礎（都道府県により違いあり）など、現場ですぐ役立つ知識です。会員・非会員を問いません。

日程と会場については変更される可能性がありますので、詳細は、都道府県技師会までお問い合わせください。

■フレッシューズセミナー開催予定：

新潟	5月11日(土)	新潟大学医歯学総合病院	3階会議室
福岡	5月11日(土)	済生会福岡総合病院	14階講堂
茨城	5月19日(日)	茨城県立医療大学	
徳島	5月19日(日)	徳島大学病院	中央診療棟2階 放射線部カンファレンス室
山梨	5月25日(土)	山梨大学医学部附属病院	放射線部 2階カンファレンスルーム
埼玉	5月26日(日)	済生会川口総合病院	東館B1講堂
千葉	6月2日(日)	井上記念病院	8階講堂
青森	6月15日(土)	八戸地域地場産業振興センター	ユートリー 5階視聴覚室
静岡	6月15日(土)	静岡県放射線技師会事務所	
大阪	6月16日(日)	大阪がん循環器病予防センター	
福井	7月13日(土)	福井県立病院	5階大会議室
三重	7月21日(日)	鈴鹿医療科学大学千代崎キャンパス	B講義棟1階 3513教室

事務所
案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。

ただし、土曜、日曜、休日、祝日、GW（4月27日～5月6日）、創立記念日（7月13日）および年末年始（12月29日～1月3日）は執務致しません。